



「人権の花」～優しさと思いやりの花を咲かせよう～

7日(木)、「人権の花」を全校で植えました。今年は、例年ご支援いただいている大曲人権擁護委員協議会の他に土地改良区からもご支援をいただきました。本当にありがとうございます。

今年は「まもるくん」「あゆみちゃん」にも特別参加してもらい、はじめの会では、これまで練習していた「人権の歌」を一緒に歌い盛り上がりました。めあて発表では、代表が発表するのではなく、自由に発表したい人が挙手するようにしたのですが、多くの子が手を挙げていることから、一人ひとりが自分のめあてをもって参加していることが分かりました。



縦割り班での活動では、「めあてカード」に自分のめあてを記入し、終わってからは振り返りも記入するようにしています。担任ばかりでなく、縦割り班の担当からも子どもたちのよさを見つけていけるようにするとともに、それをカードを通して子どもたちに伝えることで、自己有用感の高まりにつなげていきたいと思っています。

活動では、高学年が低学年に優しく植え方を教えたり、一緒に水遣りをしたりと優しさや思いやりをたくさん見ることができました。花を大切に育てる活動を通して、優しい心、思いやりの心も育ててほしいものです。



子どもたちに大人気の「まもるくん」と「あゆみちゃん」

3年道徳研究授業 ～いい友達ってなんだろう～

8日(金)に、指導主事の先生をお迎えして今年度初めての授業研究会が行われました。3年生の道徳です。宿題を忘れた「ぼく」が仲良しの「実さん」に宿題を写させてくれるように頼むのですが、「実さん」は「仲良しだから、なお教えられないよ。」と断ります。それから「ぼく」は、学校で「実さん」から声をかけられてもそっぽを向いて口をききませんでした。家に帰ってから「実さん」がなぜ「仲良しだから、なお教えられないよ。」と言ったのか考え込んでしまう、という資料です。

子どもたちは、『実さんは、「ぼく」にとってよい友達と言えるのか』ということについて考えました。様々な考えや意見が出されましたが、子どもたちが全員問題に向かっており、自分の考えを堂々と発表している姿を嬉しく思いました。教師が価値を押し付けるのではなく、友達の考えを参考にしながら自分の考えを深める「考え、議論する道徳」が求められています。



ペアでの真剣な話し合い

私は、道徳的素養を身に付けることが大切なのではなく、自分の頭で考え、自分の心で判断できる人になるために道徳があるのだと思います。なぜなら、道徳的な価値は時代によって変わっていくものだからです。そのためには、教師自身が自分の頭で考え判断できなければなりません。教科書(道徳の教科化に伴い教科書ができます)にある道徳的価値を鵜呑みにするのではなく、子どもたちに本当に考えてほしいことを自分で考えることができる教師でありたいと思っています。